

本調査研究では、これまで述べてきたように、各教科等の言語活動の充実を通して、児童生徒の「自ら考え判断し、表現できる力」をはぐくむ学習指導の在り方について検証を行ってきた。

具体的には、各教科等における「自ら考え判断し、表現できる力」を育成するための「言語活動の充実」のとらえ方や視点を明確にすることができたと考える。また、研究協力員による検証授業の実施により理論と実践をつなぐことで、各学校において各教科等で言語活動の充実を図る際の視点や具体的な方法について提案できたと考える。

「自ら考え判断し、表現できる力」の育成は、児童生徒の「生きる力」を支える重要な力であることから、さらに研究を深めていく必要がある。特に、各教科等間の取組を効果的に関連付ける工夫や言語活動の充実を図ることによる児童生徒の変容の見取り方などについては、今後の研究課題である。

本研究が、各学校における思考力・判断力・表現力を育成する学習指導の工夫・改善に取り組む際の参考になれば幸いである。

最後に、本研究を進めるに当たり、アンケートに御協力いただいた各市町村教育委員会や各学校、実践事例を提供していただいた研究協力員の先生方に心からお礼を申し上げたい。

【引用・参考文献】

中央教育審議会『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善
について（答申）』（平成20年1月）

文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則・各教科等編』（平成20年8月）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則・各教科等編』（平成20年9月）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則・各教科等編』（平成21年11月～22年6月）

鹿児島県教育委員会『鹿児島県教育振興基本計画』（平成21年4月）